

文書に発生したカビの除去方法

2009.6.11 作成（広島県立文書館）

1. カビ除去の作業に必要な道具

刷毛（どーさ刷毛など）
エタノール（濃度 70%に薄めたもの）
霧吹き（エタノールの噴霧に使用）
脱脂綿，カット綿，柔らかな布など
ピンセット
レーヨン紙など不織布
加湿器



H E P A フィルター付きの掃除機や空気清浄機などがあれば使用。

作業者が着用するもの

マスク，使い捨ての手袋，作業服，エプロンなど

2. 作業を行う前に....

換気には十分注意し，部屋の窓は必ず開けておきます。
カビの胞子を十分に除去できる性能の呼吸用マスクを着用します。
作業は長時間続けないようにします。
雨の日など湿度の高い時には作業をしないようにします。
カビを払う作業を行うときに、H E P A フィルター付きの掃除機や空気清浄機などがあれば使用します。

3. カビの除去方法

古文書の表面のカビを刷毛ではらいます。

- ・作業は文書が乾いた状態で行うこと。文書が湿気ていたら，少し乾燥させてから作業にとりかかります。
- ・カビをはらった刷毛は、カビの胞子がついているので，きれいに洗浄して，しっかり乾燥させておきます。

カビの部分をエタノールで殺菌します。

- ・エタノールは市販のものを水で薄めて 70%の濃度にして用います。エタノールは約 70%の濃度が最も殺菌効果が高いといわれています。
- ・エタノールが使えない素材もあるので，必ず文書の目立たない部分につけて影響がないかどうか，テストしてから使用します。



・カビが部分的な場合は、脱脂綿にエタノールを含ませて、その部分を軽くたたくようにするとよいです。不織布などにくるまれたカット綿を使用してもよいでしょう。使った脱脂綿やカット綿は捨てます。

・広い面にカビが広がっていた場合は、エタノールを霧吹きで吹き付けて殺菌します。

エタノールで殺菌した文書は、しっかり乾燥させてから収納します。

・冊子状の文書の場合は、乾燥させる時に、ページの間に不織布やレーヨン紙などを挟んでおいておくとういでしょう。



カビや水濡れが原因で固着している文書は、その部分にエタノールを含ませて、レーヨン紙を挟んで置いておくと、はがせる場合もあります。

固着がひどい場合は、加湿器などを利用して、固着している部分に少しずつ蒸気をあてて柔らかくし、ピンセットなどで丁寧に端の部分から開いていきます。



カビ被害を予防するために

カビは、生育すると胞子をつくり、その胞子は空気の流れによって運ばれ、あらゆる場所に付着します。カビの胞子はどこにでも存在します。環境がその生育に適さなければ、カビは成長しませんが、適度の水分と栄養分があれば、繁殖してしまいます。

カビを発生させないためには、

湿度の管理が大切です。できれば相対湿度は60%より低い状態に保ちましょう。

結露を避けるために、空調機の冷気の当たる場所などに注意します。床には湿気がたまりやすいので、床面にもものを置かないようにします。外壁に近い場所も結露しやすいので、文書や棚をおかないようにします。部屋の隅も空気がよどんでしまうので、除湿機や送風機をうまく使用して空気を動かすと効果的です。

カビの胞子や栄養源を豊富に含む汚れや埃を除去するために、**保存場所のこまめな清掃や、文書のクリーニング**を行いましょう。